



三好ジオパーク

JGC認定審査の指摘事項に対するアクションプラン

2025-2028年度版



2025年5月

三好ジオパーク推進協議会

目次

第1章：指摘事項に対するアクションプランの策定の経緯	1
1. 指摘事項に対するアクションプランの位置付け	1
2. アクションプラン実施期間	1
第2章：アクションプラン（ACP25-28）	2
1. できるだけ早く解決すべき課題（2年以内）	2
2. 中長期的に解決すべき事項	6



第1章：指摘事項に対するアクションプランの作成の経緯

1. 指摘事項に対するアクションプランの位置付け

三好ジオパークの活動は2017年4月から開始、2020年5月に三好ジオパーク構想推進協議会が発足、さらに2022年には東みよし町の参画と、体制や活動の推進・拡充を行ってきました。そして2024年度に日本ジオパーク認定審査に挑み、同年10月9日、国内47番目の日本ジオパークに認定され、「三好ジオパーク」が誕生しました。

認定を経て2024年10月30日に日本ジオパーク委員会より出された「第52回日本ジオパーク委員会 審査結果通知書」においては、三好ジオパークの特徴や活動の5つの『優れている点』と6つの『今後の課題・改善すべき点』が示されました。

三好ジオパークでは、地域全体で『三好の大地に根ざした暮らしを誇りに想い、生きぬき、未来へつなぐ』のビジョンに近づけられるよう、第2期実行計画（2025年度5月に策定）と、本「JGC認定審査の指摘事項に対するアクションプラン」（以下、アクションプラン（Acp25-28））を合わせて、さらなる活動を推進します。

2. アクションプラン実施期間

本アクションプラン（Acp25-28）の実施期間は、2025年度～2028年度の4カ年とし、三好ジオパーク第2期実行計画書とあわせた形で活動を三好ジオパーク推進協議会で実施する。

第2章：アクションプラン(ACP25-28)

1. できるだけ早く解決すべき課題（2年以内）

事業名	① ジオパークの情報発信室「とこじお」の展示等の充実	
指摘事項	大歩危峡遊覧船乗り場に併設されている情報発信室「とこじお」の可視性を向上するために、幅広い観光客が興味を持つ展示内容の工夫と説明者の常駐、外国人来訪者のための多言語化などを検討いただきたい。	
改善方針と実施内容	方針1：展示内容の多言語化を進める 内容：展示パネルや体験コーナーの表記など、英語、中国語（繁体字）などの多言語表記を行う【第2期実行計画書 活動方針「2.うる、もうける」の⑤と連動】 方針2：パネル展示の平易化、体験ブースなどの楽しめる要素を盛り込む 内容：ガイドや地域住民の方々と連携し、より楽しめる体験コーナーや展示内容を検討し、盛り込む【第2期実行計画書 活動方針「5.つたえ、つながる」の①と連動】 方針3：情報発信室「とこじお」の周知活動を展開 内容：情報発信室とこじおの場所や展示内容等について、三好ジオパークのWebやパンフレットで引き続き周知するとともに、とこじおのパンフレットの作成やYoutube等を活用した施設紹介を行い、誘客推進をする。 【第2期実行計画書 活動方針「5.つたえ、つながる」の①と連動】 方針4：展示内容の説明者の常駐について検討し、枠組みを決める 内容：2025年度に、試験的に説明者を配置する。その後、本格的な常駐に向けて検討し、枠組みを決める。	
年度計画	2025年度	予算：推進協議会予算（9,981千円）より支出
		活動：展示物の改善を検討。展示物の多言語化の実施。試験的に説明者を配置し、常駐化に向けて検討する。
	2026年度	予算：活動に応じて、推進協議会に予算計上予定
		活動：展示物の改善を行う。説明者の常駐化に向けて検討し、枠組みを決める。パンフレット作成など、「とこじお」の周知促進を行う。

事業名	② ジオパークの拠点施設整備の検討	
指摘事項	現在ジオパークの拠点施設としては、大歩危峡の「とこじお」のみであり、三好ジオパーク全体を理解するには十分といえない。サイトの案内看板の整備と併せて、三好ジオパークをより包括的に理解するためのガイダンス施設、またそれと連携した各所の情報発信施設（道の駅や資料館）などの整備を検討されたい。	
改善方針と実施内容	方針１：看板の設置を図り、三好ジオパークエリアの各特徴を周知する 内容：三好ジオパーク看板整備計画（第1期）にもとづき、三好ジオパークエリアの概要説明看板、サイト等説明看板等を設置し、三好ジオパークの特徴を周知する【第2期実行計画書 活動方針「5.つたえ、つながる」の①と連動】 方針２：三好ジオパークエリアを包括的に理解・周遊してもらうための全体的な枠組み・整備方針について検討する 内容：拠点施設である「とこじお」の位置づけを再検討し、またエリア内各施設（例：道の駅、資料館、吉野川ハイウェイオアシスなど）と協議し、三好ジオパークを周遊してもらうための仕組みづくりを検討し、整備方針を決める。【第2期実行計画書 活動方針「5.つたえ、つながる」の①と連動】 方針３：関係施設と連携し、三好ジオパークの特徴や魅力を周知する 内容：②-方針2での整備方針が決まった後、各施設（例：道の駅、資料館など）でのパネルや展示物の掲示を行い、三好ジオパークの特徴や魅力を発信し、エリア全体の周遊へ繋げる。【第2期実行計画書 活動方針「5.つたえ、つながる」の①と連動】	
年度計画	2025年度	予算：推進協議会予算（9,981千円）より支出
		活動：三好ジオパーク看板整備計画（第1期）にもとづき、概要説明看板、サイト等説明看板を4基設置予定である。エリア全体の「包括的に理解・周遊してもらうための枠組みや整備方針」を推進協議会で協議し検討する。
	2026年度	予算：活動に応じて、推進協議会に予算計上予定
		活動：三好ジオパーク看板整備計画（第1期）にもとづき、概要説明看板、サイト等説明看板を3基設置予定である。2025年度に検討した「包括的に理解・周遊してもらうための枠組みや整備方針」にもとづき、各施設に展示パネルの掲示などの整備を行う。

事業名	③ パートナーシップ制度の整備	
指摘事項	三好エリアでは、多様な活動の主体がジオパークの趣旨を理解しており、お互いの関係も良好である。今後はパートナーシップ協定を進めていただきたい。	
改善方針と実施内容	方針１：三好ジオパークのパートナーシップ制度の確立に向け、協議する 内容：三好ジオパークには、さまざまな形で活動をともしする団体が数多くある。そのため、「パートナーシップ制度」確立に向け、当推進協議会内で協議し、三好ジオパークパートナーシップ制度（仮）を確立する。【第2期実行計画書 活動方針「7. おしすすめる」の①と連動】 方針２：三好ジオパークのパートナーシップ制度にもとづき各団体と協定を締結していく 内容：③-方針1で確立したパートナーシップ制度にもとづき、各団体と協定を締結していく。【第2期実行計画書 活動方針「7. おしすすめる」の①と連動】	
年度計画	2025年度	予算：推進協議会予算（9,981千円）より支出
		活動：「パートナーシップ制度」確立に向け、当推進協議会内で協議し、三好ジオパークパートナーシップ制度（仮）を確立する
	2026年度	予算：活動に応じて、推進協議会に予算計上予定
		活動：確立したパートナーシップ制度にもとづき、各団体と協定を締結していく

事業名	④ 東みよし町域における地質遺産（地形を含む）の 価値づけとサイト整備・活用	
指摘事項	地域住民や関係団体とともに古墳や巨木、神社等の文化サイトの保全を図り、地質遺産の価値付けとサイト整備・活用を進めていただきたい。	
改善方針と 実施内容	方針１：研修会や講座などを通じて、「ジオ目線」の東みよし町域の地域資源を共に新・再発見し、価値を共有する 内容：東みよし町域の地質・地形に関係する様々な地域資源について、地域団体と新たにまたは改めて見出し、すでに東みよし町域で選定されている9つのサイトの価値も含めて、知ってもらうための研修会や講座を行う。【第2期実行計画書 活動方針「1.しる、まなぶ」の③と連動】 方針２：東みよし町域に特化したツアーや取り組みを創出する 内容：東みよし町の地域の方やガイド団体と連携し、東みよし町域に特化したツアーや取り組みを構築する。【第2期実行計画書 活動方針「2.うる、もうける」の②と連動】 方針３：サイトの保全状況や課題を把握し、ジオパークプログラムでどのような保全活動をしていくかを検討する 内容：④-方針1でサイトや地域資源の価値の発掘を様々な団体と行いつつ、地域が抱える課題を捉える。その後、ジオパークプログラムを用いてどのような保全活動ができるかを共に検討する。【第2期実行計画書 活動方針「3.まもる、つなぐ」の①、②、③、④と連動】	
年度計画	2025年度	予算：推進協議会予算（9,981千円）より支出
		活動：東みよし町域の9つのサイトや様々な地域資源を理解するための調査や研修会などを実施し、価値を見出す。調査や研修会の参加者をベースに、東みよし町域での新しいツアーや取り組み創出のためのメンバーを募る。
	2026年度	予算：活動に応じて、推進協議会に予算計上予定
		活動：東みよし町域に特化したツアー（もしくは取り組み）の計画し、実施する。また継続できるようフィードバックする。また東みよし町域での地域資源の保全活動状況を把握し、ジオパークプログラムを用いて何ができるか検討を始める。

2. 中長期的に解決すべき事項

事業名	⑤ 岩石販売中止に向けた協議の継続	
指摘事項	2023年から継続している岩石販売の縮小から中止に向けた販売事業者との協議を引き続き進めていただきたい。協議会から岩石販売の代替案提示とあわせて、地域の魅力発信と誘客につながる取り組みについても引き続き事業者とともに検討していただきたい。	
改善方針と実施内容	方針1：岩石の販売の縮小・中止に向けた協議を継続しつつ、岩石に代わる商品について共に検討する 内容：岩石販売事業者と販売縮小・中止に向けて話し合いを継続する。話し合いでは販売縮小の事案だけでなく、誘客に繋げるための施設の新たな利活用、岩石に代わる商品案についてもともに検討する。 方針2：事業者が抱える課題（岩石鉱物展示のコーナーの活用）を共に検討し、活用を見出す 内容：事業者の施設の一部には、岩石鉱物の展示をしているコーナー（有料）がある。それらの展示物の解説や活用を見出すために協議し、学習やイベントの場として活用する。またイベント時には、岩石鉱物の破壊が持続可能な活用ではないことや、事業者は販売縮小に向かっている旨も伝える。岩石販売の縮小と、先述の学習やイベントを通して、地球資源の貴重さや三好の大地の特徴・価値を知ってもらう工夫を行い、新たな誘客に繋げる。	
年度計画	2025年度	予算：推進協議会予算（9,981千円）より支出
		活動：岩石販売の縮小・中止に向けて協議し、商品の代替案の検討も行う。施設内での（岩石鉱物コーナーを活かした）学習会やイベントを開催する。
	2026年度	予算：活動に応じて、推進協議会に予算計上予定
		活動：岩石販売の縮小・中止に向けて協議し、商品の代替案の検討も行う。施設内での（岩石鉱物コーナーを活かした）学習会やイベントを開催する。
	2027年度	予算：活動に応じて、推進協議会に予算計上予定
		活動：岩石販売の中止に向けて協議し、商品の代替案の検討も行う。施設内での（岩石鉱物コーナーを活かした）学習会やイベントを開催する。
	2028年度	予算：活動に応じて、推進協議会に予算計上予定
		活動：岩石販売の中止に向けて協議し、商品の代替案の検討も行う。施設内での（岩石鉱物コーナーを活かした）学習会やイベントを開催する。

事業名	⑥ 剣山系の保全に関する調査・研究の推進	
指摘事項	貴重な自然景観と希少植物が分布しており、今後も保全が求められる。剣山系において、特に、近年生じているシカの食害や、観光客による登山道の踏み荒らし等への対策が急がれる。地域の関係者ととともに調査・研究を進め、対策に活かしてほしい。	
改善方針と実施内容	方針１：剣山系の現状や課題、保全方針について関係する団体と協議する 内容：以前より剣山系の自然環境の保全について協議されている剣山国定公園地域連携協議会（以下、連携協議会）に参加し、協議する。【第2期実行計画書活動方針「3. まもる、つなぐ」の①と連動】 方針２：剣山系の植物群落に関するデータを収集し、対策を検討する 内容：ニホンジカの食害から現在の剣山系の植物群落を保護するため、分布面積などの定量データの収集を開始する。そのデータを元に、関連する保全団体と効果的な保全方針について協議し、対策を練る。【第2期実行計画書 活動方針「3. まもる、つなぐ」の①、「6. さぐる、しらべる」の①と連動】 方針３：剣山系の登山道の荒廃やその対策に向けて、事例を知り、対策に向けた研修や調査を実施する 内容：剣山系の登山道保全に関わる各団体と協議する。また、必要に応じて、他の山岳地域の事例を知る研修会を開催する。様々な研究者と繋がり、登山道保全についての調査研究を推進・サポートし、剣山系ならではの登山道保全へと繋げる【第2期実行計画書 活動方針「3. まもる、つなぐ」の①、「6. さぐる、しらべる」の①と連動】	
年度計画	2025年度	予算：推進協議会予算（9,981千円）より支出
		活動：連携協議会に参加する。剣山系の植物群落の調査を検討・開始する。登山道保全に関わる各団体と協議し、研修会等を実施する。
	2026年度	予算：活動に応じて、推進協議会に予算計上予定
		活動：前年度のデータを元に連携協議会と対象の保全について協議する。登山道保全に関わる各団体と協議を続け、研修会等を実施する（必要に応じ、調査をサポート）。
	2027年度	予算：活動に応じて、推進協議会に予算計上予定
		活動：連携協議会と対象の保全について協議する。登山道保全に関わる各団体と協議を続け、研修会等を実施する（必要に応じ、調査をサポート）。
	2028年度	予算：活動に応じて、推進協議会に予算計上予定
		活動：連携協議会と対象の保全について協議する。登山道保全に関わる各団体と協議を続け、研修会等を実施する（必要に応じ、調査をサポート）。